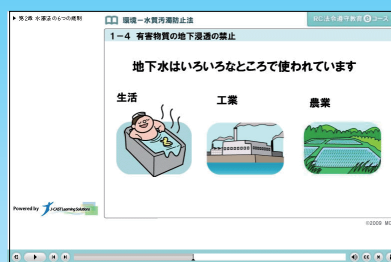
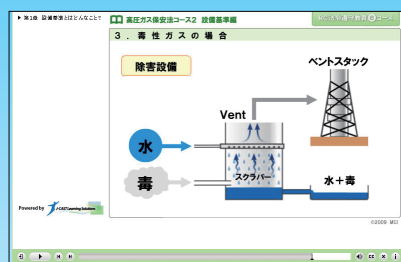
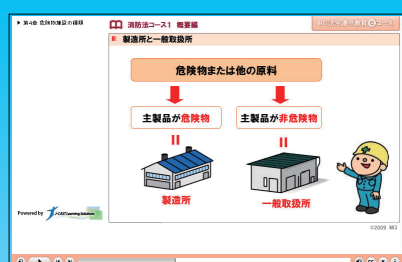


# 『工場の安全と環境を守るeラーニング』

基礎シリーズ（全16講座）

大手化学工業会社の製造現場のスタッフたちが中心となって、  
「職場の安全と、地球の安全を守るために」開発したeラーニングコース



- わかりやすく、学びやすいデザイン
- すぐ仕事に役立つ知識が満載

制作・著作／三井化学株式会社

発売元／株式会社ジェイ・キャスト

## 16コース タイトル一覧

- 高圧ガス保安法 1（目的・定義編）
- 高圧ガス保安法 2（設備基準編）
- 高圧ガス保安法 3（保安管理編）
- 高圧ガス保安法 4（申請編）
- 消防法 1（概要編）
- 消防法 2（設備基準編）
- 消防法 3（管理基準編）
- クレーンの取り扱い
- 水質汚濁防止法
- 大気汚染防止法
- 安全配慮義務及び安全遵守義務
- 工場における毒劇物管理
- 化学設備、特定化学設備の取り扱い
- ボイラー及び压力容器の取り扱い
- 廃棄物関連法
- 悪臭・騒音・振動規制法

詳しくは中面をご覧ください

# 「工場の安全と環境を守るeラーニング」基礎シリーズ コース詳細

本教材は、音声・動画付きのHTMLコンテンツです(ナレーション字幕付き)。

※各コース内の、1章あたりの学習時間は5～10分です

|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>1 高圧ガス保安法1(目的・定義編)</b>                                                                                | <b>全6章</b>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1章 高圧ガスの危険性<br>2章 高圧ガス保安法の法体系<br>3章 高圧ガスの定義<br>4章 その他高圧ガスの定義<br>5章 高圧ガスの適用除外<br>6章 高圧ガス設備規制の範囲           | 高圧ガスを使用するためにはどうすればよいかを知り、事故事例から高圧ガスの危険性を学びます。<br>高圧ガス保安法に関連する法令をとりあげ、それぞれの関係を学びます。<br>高圧ガスの定義と使用物質の定義を学びます。法令に沿った判断の基本になります。<br>特に危険なため、高圧ガス保安法が規制する毒性ガス、特定高圧ガスについて学びます。<br>高圧ガスに該当するものでも、高圧ガス保安法の適用を除外されるものを学びます。<br>高圧ガス設備に関わる規制のうち、製造現場に関わりが深いものを紹介します。                  |
| <b>2 高圧ガス保安法2(設備基準編)</b>                                                                                 | <b>全6章</b>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1章 設備基準とはどんなこと？<br>2章 法定設置設備(監視装置)<br>3章 法定設置設備(安全装置)<br>4章 耐震設計が必要な設備と緊急遮断弁<br>5章 電気設備の防爆性能<br>6章 保安用設備 | 設備基準編の内容を説明し、保安距離とは何か、どのようにして決められているかを学びます。<br>温度計や圧力計を設置する理由と、どのような場所への設置が決められているのか学びます。<br>ガス検知器を設置する場所や種類を知り、安全弁、自動制御装置の働きについて学びます。<br>耐震設計が必要な設備と設計の概要、地震が起こったときの対策や緊急遮断弁について学びます。<br>高圧ガス設備内で使われている電気設備の防爆性能と、爆発防止のための基準を学びます。<br>高圧ガス設備の規制のうち、製造現場に関わりが深いものについて紹介します。 |
| <b>3 高圧ガス保安法3(保安管理編)</b>                                                                                 | <b>全6章</b>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1章 保安管理とは？<br>2章 自主保安認定制度とは？<br>3章 保安管理システム<br>4章 安全性評価<br>5章 防災活動・環境安全監査<br>6章 運転管理                     | 保安管理の基本姿勢である「保安管理」とは何かを学習します。<br>自主保安認定を取得することで得られるメリットと、自主保安認定の取消し要件について学びます。<br>保安管理システムによって、工場の安全がどのように保たれているのか学びます。<br>安全性評価とは何かを知り、安全性評価する方法を学びます。<br>防災活動を項目別に整理し、環境安全監査の目的とねらいを理解します。<br>運転管理で挙げられている項目と、それらを管理する理由を学びます。                                            |
| <b>4 高圧ガス保安法4(申請編)</b>                                                                                   | <b>全6章</b>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1章 申請とは？届出とは？<br>2章 各種手続きの流れ<br>3章 製造の許可申請・届出<br>4章 変更申請を行う範囲<br>5章 軽微変更、溶接補修の事前届出<br>6章 危害予防規程          | 未申請・無届は、社会的信用をなくすことがあります。申請と届出の違いを知りましょう。<br>各種手続きの流れを学びます。<br>高圧ガスの製造の申請と届出、両者の違い、そして製造許可の申請ができないケースを学びます。<br>設備変更や新しい物質を追加する場合の申請について、具体的に学びます。<br>軽微変更を行う際の流れと、溶接補修の事前届出について学びます。<br>公共安全の維持と災害発生防止の基本、危害予防規程の考え方と規程に掲げる事項を学びます。                                         |
| <b>5 消防法1(概要編)</b>                                                                                       | <b>全5章</b>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1章 消防法とはどんな法律か<br>2章 消防法の法体系<br>3章 危険物とは何か<br>4章 危険物施設の種類<br>5章 危険物規制の概要                                 | 消防法とはどんな法律か、工場でなぜ消防法が適用されるのかを学びます。<br>消防法の法体系とその概要を学びます。<br>消防法が定める危険物と、その種類を学びます。<br>危険物施設にはどのような種類があるのか学びます。<br>危険物の取り扱い、その形態や量によって規制が異なることを学びます。                                                                                                                         |
| <b>6 消防法2(設備基準編)</b>                                                                                     | <b>全5章</b>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1章 危険物施設の設置<br>2章 危険物施設共通の安全技術基準<br>3章 屋外タンク貯蔵所固有の安全技術基準<br>4章 火災予防条例関係の安全技術基準<br>5章 消火設備の技術基準           | 危険物施設を設置する場合の保安距離や、保有空地について学びます。<br>危険物施設全体に共通する安全技術基準について学びます。<br>屋外タンク貯蔵所に固有の、安全技術基準について学びます。<br>火災予防条例について学び、その目的を知ります。また少量危険物等の貯蔵、取り扱いを学びます。<br>危険物施設に設置する、消火設備について学びます。                                                                                                |
| <b>7 消防法3(管理基準編)</b>                                                                                     | <b>全6章</b>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1章 危険物施設の設置・変更等の手続き<br>2章 危険物施設の各種検査<br>3章 危険物取扱者<br>4章 危険物保安監督者等<br>5章 予防規程<br>6章 定期点検と保安検査             | 危険物施設の新規設置、既存施設の改造や、機器・配管の取り替えなどの際の法的手続きを学びます。<br>危険物施設の設置・変更の際の、工事完了前後に行われる各種検査について学びます。<br>危険物取扱者制度の概要と、危険物取扱者の責任・義務・心構えについて学びます。<br>危険物施設の保安監督者等の業務について学びます。<br>法律で定めなければならない予防規程。プラントの安全を確保するものです。<br>危険物施設の安全確保のために、定期点検および保安検査が果たす役割の重要性を学びます。                        |

|                            |                                                |
|----------------------------|------------------------------------------------|
| <b>8 クレーンの取り扱い</b>         | <b>全3章</b>                                     |
| 1章 クレーンの必要性と概要             | クレーンの歴史/必要性/定義と種類(天井クレーン、テルハ、スタッカークレーン)を学びます。  |
| 2章 クレーンの危険性                | クレーン作業での事故やヒヤリ事例から原因を考え、安全に使用するポイントを学びます。      |
| 3章 クレーンを安全に使用するために必要な3つのこと | クレーンの運転業務に関わる、就業制限や点検の義務、使用上の規制を学びます           |
| <b>9 水質汚濁防止法</b>           | <b>全6章</b>                                     |
| 1章 水濁法の目的                  | 水濁法の成立と目的、重要性を知り、届出の義務と排水処理の必要性を認識します。         |
| 2章 水濁法の6つの規制               | 水濁法の6つの規制を理解し、違反事例から影響の大きさと法令遵守の大切さを学びます。      |
| 3章 排水管理                    | 不十分な処理で起こる現象を知り、個々のプラントで行う排水処理の大切さを学びます。       |
| 4章 排水基準①(健康項目)             | 水濁法で規制されている排水基準とは何か、健康項目とは何かについて学びます。          |
| 5章 排水基準②(生活環境項目)           | 排水基準を理解し、生活環境項目とはなにかを具体的に学びます。                 |
| 6章 排水の総量規制制度               | 地域の実態に応じて定められる「上乗せ基準」「横だし基準」「総量規制制度」について学びます。  |
| <b>10 大気汚染防止法</b>          | <b>全7章</b>                                     |
| 1章 大防法の目的                  | 大防法の成立と目的、重要性を知り、届出の義務と排ガス処理の必要性について学びます。      |
| 2章 大防法の5つの規制               | 大防法の5つの規制の重要性を、違反事例とその影響から学びます。                |
| 3章 排ガスの管理                  | 排ガス処理の流れと不十分な処理で際起こる現象を知り、プラントの責務を自覚します。       |
| 4章 大気汚染物質①(ばい煙)            | 大防法で規制される排出基準、規制物質を知り、規制物質の1つ「ばい煙」について学びます。    |
| 5章 大気汚染物質②(揮発性有機化合物)       | 揮発性有機化合物を知り、法規制と自主的取組によるVOC削減目標について学びます。       |
| 6章 大気汚染物質③(粉じん)            | 大防法で規制されている粉じんについて知り、特定粉じんの危険性とその規制を学びます。      |
| 7章 大気汚染物質④(有害大気汚染物質)       | 有害大気汚染物質と優先取組物質について学び、処理設備や自主的削減努力について考えます。    |
| <b>11 安全配慮義務と安全遵守義務</b>    | <b>全4章</b>                                     |
| 1章 法の定める義務、法の成立経緯と目的       | 本コースの内容を概観し、この法令が成立した経緯と目的、学習に必要な用語について説明します。  |
| 2章 事業者の措置とは                | 労働災害防止のための事業者の措置、安衛法に基づく事業者の責任と果たすべき義務を学びます。   |
| 3章 事業者の安全配慮とは              | 労働法に定める、事業者が果たすべき安全配慮義務について学びます。               |
| 4章 労働者の安全遵守とは              | 労働災害防止のため、労働者にも果たすべき義務があります。安全遵守義務の内容を学びます。    |
| <b>12 工場における毒劇物管理</b>      | <b>全3章</b>                                     |
| 1章 毒物及び劇物取締法               | 毒物・劇物の定義、この法令の目的、毒物劇物営業者の登録制度や、毒劇物譲渡の手続きを学びます。 |
| 2章 毒劇物の設備・管理基準             | 毒劇法で定められている、毒劇物を扱う際の設備や管理の基準を学びます。             |
| 3章 毒劇物の管理体制                | 毒物劇物取扱責任者の役割と毒物劇物危害防止規定の概要、事故の際の対応を学びます。       |
| <b>13 化学設備、特定化学設備の取り扱い</b> | <b>全2章</b>                                     |
| 1章 化学設備、特定化学設備とはどんなもの？     | 化学設備、特定化学設備、特殊化学設備、管理特定化学設備の定義を学びます。           |
| 2章 化学設備、特定化学設備の届出・検査       | 化学設備や特定化学設備の届出と、検査の時期や方法、災害防止措置の定めについて学びます。    |
| <b>14 ボイラー及び圧力容器の取り扱い</b>  | <b>全5章</b>                                     |
| 1章 ボイラー則の成り立ち              | ボイラーの発展からみるボイラー則の成り立ちと、ボイラー則の必要性について学びます。      |
| 2章 ボイラーとはどんなもの？            | ボイラーの定義と種類を確認し、事故事例からその危険性と点検の重要性を学びます。        |
| 3章 圧力容器とはどんなもの？            | 圧力容器の定義と種類を確認し、事故事例や防災事例からその危険性について学びます。       |
| 4章 設置から廃止までの手続き            | ボイラー及び第一種圧力容器の設置から廃止の流れ、申請や検査などの手続きを学びます。      |
| 5章 点検及び検査                  | ボイラー及び第一種圧力容器に関係する4つの点検・検査について学びます。            |
| <b>15 廃棄物関連法</b>           | <b>全5章</b>                                     |
| 1章 廃棄物処理法をとりまく法体系          | 廃棄物を巡る社会の動向、循環型社会形成の必要性、廃棄物処理法を取巻く法体系を学びます。    |
| 2章 廃棄物処理法1(概要)             | 法令の目的と制定までの歴史背景を知り、廃棄物の分類と、廃棄物処理法の対象を学びます。     |
| 3章 廃棄物処理法2(産業廃棄物の処理)       | 処理手続き、処理施設の維持・管理、保管基準、法令違反の際のペナルティについて学びます。    |
| 4章 廃棄物処理法3(特定有害産業廃棄物)      | 特定有害産業廃棄物であるPCBや石綿について知り、有害産業廃棄物の処理について学びます。   |
| 5章 その他の主要な法令               | ダイオキシン対策法、バーゼル法、建設リサイクル法などリサイクル関連法令を学びます。      |
| <b>16 悪臭・騒音・振動規制法</b>      | <b>全7章</b>                                     |
| 1章 悪臭・騒音・振動 - 概論           | 環境基準と規制基準の違いを知り、実際の苦情例から感覚公害とは何かを学びます。         |
| 2章 悪臭防止法                   | 悪臭防止法の内容を理解し、法を遵守する重要性を確認します。                  |
| 3章 悪臭防止技術                  | 悪臭防止の各種方策を学び、工場で働く者としての自覚を高めます。                |
| 4章 騒音規制法                   | 騒音規制法の内容を理解し、法を遵守する重要性を確認します。                  |
| 5章 騒音防止技術                  | 騒音防止の各種方策を学び、工場で働く者としての自覚を高めます。                |
| 6章 振動規制法                   | 振動規制法の内容を理解し、法を遵守する重要性を確認します。                  |
| 7章 振動防止技術                  | 振動防止の各種方策を学び、工場で働く者としての自覚を高めます。                |



## 教材価格

人数や期間を気にせず利用したい  
自社のLMSに載せて利用したい



### CD-ROMパッケージ製品ご購入

自社で利用するLMSやイントラネットへの導入、集合研修の教材としての活用など、社内のさまざまな場面でご利用いただけます。CD-ROMパッケージとなるため、ご利用人数や期間の制限はありません。また、法改正による内容変更があっても、一度ご購入いただいたコースは、改訂版を特別割引価格(50%OFF)でご購入いただけます。

1コース **100,000円** (税込110,000円)

※動作環境については、お問い合わせください。  
※1配送につき、全国一律 送料700円(税込)。

社員のリカレント教育・スキルアップの  
学習コンテンツとして利用したい



### 個人で受講できるオンライン配信

個人向けオンライン学習サービス「ASUBeTO STORE (アスビトストア)」でも、全16コースを配信。受講コースの選択と申し込み、支払いの手続きは社員個人で完結でき、すぐに受講が可能なサービスです。受講証明のための修了証も発行できます。



ASUBeTO Store

<https://www.asubeto.jp/store/>



1カ月／1コース **1,000円** (税込1,100円)

※学習管理ができるLMSを利用したスポット配信も可能です。希望される場合は、ご相談ください。(受講人数10名様より承ります)

## 「見て、考えて、学ぶ」ビデオ教材『KY(危険予知)活動実践コース』も好評発売中!

ゼロ災への願いを込めて、工場の安全担当者が手がけた、  
現場の人たちの安全にかける熱い思いが胸を打つビデオ教材

事故の再現ドラマと、実際の被災者インタビューからなる全4章構成(25分)。  
職場の安全を守る危険予知活動の重要性を認識し、実践へとつなげます。  
アンケート、KY基礎チェックテストの印刷・配布も可能です。

価格 (DVD-ROM 1枚)

**100,000円** (税込110,000円)

POINT  
**1**

### 迫力のドラマ

迫力ある映像、心を打つストーリーが  
学習者の注意を喚起し、KY活動実践の  
モチベーションを育みます。

POINT  
**2**

### 実践ノウハウ

「自分だけは大丈夫」という思い込みを  
払拭し、組織全体で取り組むKY活動  
の実践方法を学びます。

POINT  
**3**

### 明確な学習効果

eラーニングシステムによるテスト・  
アンケートも可能。学習効果の評価・  
分析もスピーディにできます。



お問い合わせ、資料請求など、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ

Phone: **03-3264-2604**

mail: **learning@j-cast.com**